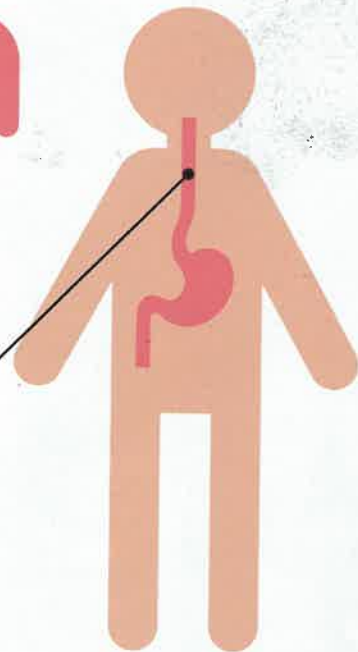


臓器のはなし



今月は 食道

胃へ通じるルート の逆流に警戒しよう

**胸やけが続くなら
胃カメラで検査を**

のどと胃をつなぐ筒状の筋肉である食道は、食べ物の通り道。食べ物を蠕動運動(収縮運動)によって胃に押し込みます。また胃との結合部の下部食道括約筋という筋肉がフタのよくな働きをして、食べ物逆流するのを防ぐ役割をします。

加齢で筋肉が衰えると蠕動運動が弱まり、食べ物食道に逆流しやすくなります。肥満で内臓が圧迫されて胃の入り口が緩くなり、逆流するケースも。すると、逆流性食道炎の発症リスクが高まり、胃液による炎症によって、胸やけやムカムカ力するといった状態になります。

食べ物逆流する症状は、重力から考えても、食事をすすぐ横になると強くなる傾向があります。食後、20〜30分ほど座ってから横になってください。また糖尿病や神経疾患などで蠕動運動の力が落ちている人なら、1時間ぐらいついてるのがいいかもしれません。もちろん個人差がありますから、もつと時間をかけた方がいい人もいますでしょう。

逆流性食道炎は、放置しておく炎症だけでは済まされず、出血してしまう場合もあります。胸やけ症状が続くようでしたら、まず胃カメラ(内視鏡)の検査をおすすめします。

がんも静脈瘤も

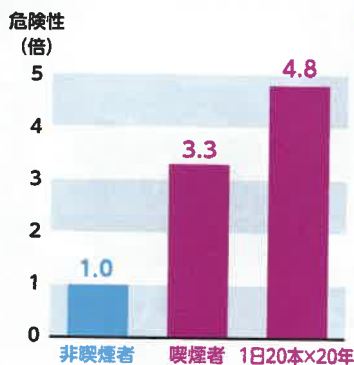
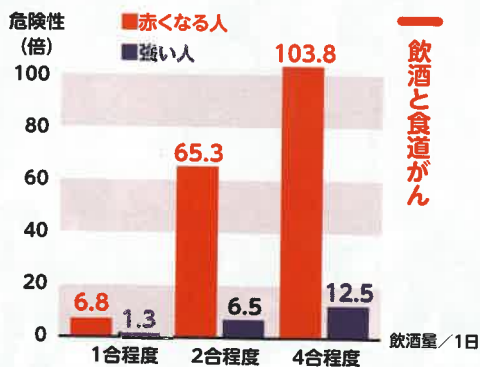
飲酒と喫煙がリスク要因

逆流性食道炎の人の食道は、胃酸で粘膜が刺激され、常に強いストレスがかかっています。炎症がひどくなると、がん化する可能性も増えるでしょう。タバコと酒も食道の粘膜への負担が大きいため、当然、食道がんのリスク要因となるでしょう。

食道がんは、ひと昔前なら早期発見が難しく外科的な手術も大変でした。今は胃カメラで検査し、病変が見つかったら、すぐ組織を取って病理組織診断が行えます。がんの根治を目指す放射線治療も進化したことから、病状によって高齢者の罹患者などは手術せず、治療後に経過観察していく流れも多いようですね。

食道静脈瘤は、肝硬変の症状の一つ。肝硬変により肝臓自体が硬くなると、静脈の血液の流れに変化が起き、血液は食道へ逆流します。その結果、血流量が増加した食道の静脈が太くなり、こぶのようにふくれる静脈瘤ができます。

さらに悪化すると静脈瘤が破裂し、吐血することもあります。そこに至るまで気がつかないこともあるという、怖い病気です。罹患者には多量の飲酒習慣の方が多くそうです。この自分のアルコール摂取量には、常日頃から注意してほしいです。



出典：特定非営利活動法人 日本食道学会編「食道がん診療ガイドライン2017年版」

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団 平成医会 産業医)

1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。